



ユーティリティ

この章では、次のユーティリティについて説明します。

- `setup` ユーティリティ コマンド
- ファイル操作ユーティリティ コマンド
- ユーザ ログ ユーティリティ コマンド

setup コマンドの使用法

- setup コマンドパラメータ (p.4-2)
- setup コマンドの開始方法 (p.4-4)
- setup ユーティリティのリストの定義方法 (p.4-5)

setup コマンドパラメータ

setup ユーティリティは、基本的な設定プロセスを1ステップずつ実行できる対話形式のウィザードです。このユーティリティは、ローカル端末を初めて接続したときに自動的に実行されます。また、システム設定を変更するために、Telnet またはローカル端末を使用してこのユーティリティを明示的に起動することもできます。

次の表に、setup ユーティリティのすべてのコマンドパラメータを示します。

表 4-1 setup コマンドパラメータ

パラメータ	定義
IP アドレス	SCE プラットフォームの IP アドレス
subnet mask	SCE プラットフォームのサブネットマスク
default gateway	デフォルトゲートウェイ
hostname	SCE プラットフォームの特定に使用される文字列。最大 20 文字で示されます。
admin password	Admin レベルのパスワード。 英数字で始まる文字列を 4 ~ 100 文字で指定できます。
.root password	Root レベルのパスワード。 英数字で始まる文字列を 4 ~ 100 文字で指定できます。
password encryption status	パスワードの暗号化をイネーブルまたはディセーブルにします。
時間設定	
time zone name and offset	標準時間の略記と UTC からのオフセットの分
local time and date	ローカルの現在の日時。次の形式で表示されます。 00:00:00 1 January 2007
SNTP 設定	
broadcast client status	Simple Network Timing Protocol (SNTP) ブロードキャストクライアントのステータスを設定します。 イネーブルの場合、SCE は SNTP ブロードキャストサーバから受信した最新の時間とローカル時間を同期させます。
unicast query interval	更新のためのユニキャスト要求間のインターバルを秒で示します (64 ~ 1024)。
unicast server IP address	SNTP ユニキャストサーバの IP アドレス
DNS 設定	
DNS lookup status	IP DNS ベースのホスト名変換をイネーブルまたはディセーブルにします。
default domain name	完全に記述されていないホスト名を完全に表示するために使用されるデフォルトのドメイン名

表 4-1 setup コマンド パラメータ (続き)

パラメータ	定義
IP アドレス	Domain Name Server (DNS; ドメイン ネーム サーバ) の IP アドレス (最大 3 サーバ)
RDR フォーマットの送信先設定	
IP アドレス	Raw Data Record (RDR) フォーマットの送信先の IP アドレス
TCP port number	RDR フォーマットの送信先の TCP ポート番号
アクセス コントロール リスト	
Access Control List number	Access Control List (ACL; アクセス コントロール リスト) の必要数および各管理インターフェイスのアクセスを許可 (または拒否) する IP アドレスを指定する場合、次の ACL が必要です。 <ul style="list-style-type: none"> Any IP アクセス Telnet アクセス SNMP GET アクセス SNMP SET アクセス
list entries (各リストに最大 20)	(アクセスを許可または拒否するための) IP アドレス
IP access ACL	IP アクセスを制御する ACL の ID 番号
telnet ACL	Telnet アクセスを制御する ACL の ID 番号
SNMP 設定	
SNMP agent status	SNMP 管理をイネーブлまたはディセーブルにします。
GET community names	GET アクセスとそれに関連する ACL (最大 20) を許可するコミュニティ ストリング
SET community names	SET アクセスとそれに関連する ACL (最大 20) を許可するコミュニティ ストリング
trap managers (最大 20)	トラップ マネージャの IP アドレス、コミュニティ ストリング、および SNMP バージョン
Authentication Failure trap status	Authentication Failure トラップのステータスを設定します。
enterprise traps status	エンタープライズ トラップのステータスを設定します。
system administrator	システム管理者の名前
トポロジ設定 (すべてのプラットフォーム)	
connection mode	SCE プラットフォームが bump-in-the-wire トポロジ (インライン) でインストールされているかどうか、または回線ではなくオプティカル スプリッタや外部スイッチを使用しているかどうか (受信専用) を示します。
Admin status of the SCE platform after abnormal boot	障害発生によるリブート後に他に問題が検出されない場合、SCE プラットフォームを Failure 状態のままにするか運用可能なステータスに移行するかを示します。
トポロジ設定 (SCE 1000)	
link bypass mode on operational status	SCE 1000 が運用可能な場合、トラフィックをバイパスするかどうかを示します。
redundant SCE 1000 platform?	冗長用の SCE 1000 がバックアップとしてインストールされているかどうかを示します。
link bypass mode on non-operational status	SCE 1000 が運用可能でない場合、トラフィックをバイパスするか、または切断するかどうかを示します。
トポロジ設定 (SCE 2000)	

表 4-1 setup コマンド パラメータ (続き)

パラメータ	定義
type of deployment	カスケード ポート経由で接続された 2 つの SCE プラットフォームを使用したカスケード トポロジかどうか、または単一のプラットフォームのトポロジかどうかを示します。
physically connected link (カスケード トポロジ専用)	カスケードで配置されている場合、このパラメータに SCE 2000 がオンで配置されているリンクのインデックスを設定します。SCE 2000 のオプションは link-0 または link-1 です。単一の SCE 2000 プラットフォームの配置の場合、両方のリンクに 1 つの SCE 2000 を使用して配置しているため、このパラメータは不要です。この場合、ポート 1～ポート 2 に接続されているリンクはデフォルトのリンク 0 で、ポート 3～ポート 4 に接続されているリンクはデフォルトのリンク 1 です。
priority (カスケード トポロジ専用)	カスケード トポロジの場合、対象の SCE 2000 がプライマリかセカンダリかを示します。
on-failure behavior (インライン接続モード専用)	SCE 2000 がインラインで配置されている場合、障害時の動作をバイパスするかリンクを切断するかどうかを示します。

これらのパラメータに関する情報は、このマニュアル内の該当するセクションに記述されています。

SCE プラットフォーム トポロジに関する詳細および setup ユーティリティの具体的な説明については、『Cisco SCE 2000/SCE 1000 Installation and Configuration Guides』を参照してください。

setup コマンドの開始方法

setup

ステップ 1 SCE# プロンプトで、setup と入力し、**Enter** キーを押します。

次のダイアログが表示されます。

```

--- System Configuration Dialog ---
At any point you may enter a question mark '?' followed by 'Enter' for help.
Use ctrl-C to abort configuration dialog at any prompt.
Use ctrl-Z to jump to the end of the configuration dialog at any prompt.
Default settings are in square brackets '['].
Would you like to continue with the System Configuration Dialog? [yes/no]: y
system configuration dialog begins.

```

setup ユーティリティのリストの定義方法

複数エントリのパラメータ（リスト）

setup ユーティリティを明示的に起動した場合、ある種のパラメータについて、複数のエントリからなるリストを選択できます。

ACLのように、実際に複数のエントリを含むリストであるパラメータもいくつかあります。これらのリストが空白（初期的な設定）または1つのエントリだけを含む場合には、スカラー値のパラメータと同様に動作しますが、リストの場合はエントリを追加できます。

これらのリストに複数のエントリがすでに入っている場合には、リスト全体が表示され、そのあとでいくつかのオプションが提示されます。次に、SNMP（簡易ネットワーク管理プロトコル）トラップマネージャの抜粋を示し、リストエントリの設定方法を説明します。

ステップ1 リスト内のエントリが表示されます。

```
There are 2 SNMP trap managers in the current configuration as follows:  
IP address: 10.10.10.10 Community: privateVersion: 1  
IP address: 10.11.10.1 Community: pcubeVersion: 2c
```

ステップ2 3つのオプションが表示されます。



(注)

表にエントリが1つしかない場合、そのエントリはデフォルト[]として表示され、これをそのまま使用するか変更できます。3つのリストオプションは表示されません。

```
Please choose one of the following options:  
1. Leave the running configuration unchanged.  
2. Clear the existing lists and configure new ones.  
3. Add new entries.  
Enter your choice:
```

ステップ3 入力した選択項目に応じて、セットアップを続行するためのプロンプトが表示されます。

- 1. Leave the running configuration unchanged :
ダイアログは次の質問に進みます。リストは変更されません。
- 2. Clear the existing entries and configure new ones :
リストの新しいエントリを入力するように指示するプロンプトが表示されます。
最初のエントリを入力すると、さらに別の新しいエントリを追加するかどうかを質問されます。
Would you like to add another SNMP trap manager? [no]:y
リストは空白だったので、最大数までエントリを入力できます。
- 3. Add new entries :
リストの新しいエントリを入力するように指示するプロンプトが表示されます。
最初のエントリを入力すると、さらに別の新しいエントリを追加するかどうかを質問されます。
Would you like to add another SNMP trap manager? [no]:y
最大数に達するまで、エントリを追加できます。

SCE プラットフォーム ファイルの処理

CLI コマンドには、ファイル管理用のさまざまなコマンドがあります。これらのコマンドを使用して、ファイルやディレクトリを作成、削除、コピー、および表示できます。



(注) ディスク容量について：ディスク処理を実行するとき、新しいファイルを追加して SCE ディスクに保存した結果、70%を超えることがないように注意してください。

- [ディレクトリの処理 \(p.4-6\)](#)
- [ファイルの処理 \(p.4-8\)](#)

ディレクトリの処理

- [ディレクトリの作成方法 \(p.4-6\)](#)
- [ディレクトリの削除方法 \(p.4-6\)](#)
- [ディレクトリの変更方法 \(p.4-7\)](#)
- [ワーキング ディレクトリの表示方法 \(p.4-7\)](#)
- [ディレクトリにあるファイルの表示方法 \(p.4-7\)](#)

ディレクトリの作成方法

`mkdir`

ステップ 1 SCE# プロンプトで、`mkdir directory-name` と入力し、**Enter** キーを押します。

ディレクトリの削除方法

ディレクトリを削除するコマンドは2種類あり、ディレクトリが空かどうかによって異なります。

- [ディレクトリとすべてのファイルの削除方法 \(p.4-6\)](#)
- [空のディレクトリの削除方法 \(p.4-7\)](#)

ディレクトリとすべてのファイルの削除方法

ステップ 1 SCE# プロンプトで、`delete directory-name/recursive` と入力し、**Enter** キーを押します。

再帰フラグは、指定されたディレクトリにあるすべてのファイルとサブディレクトリを削除します。

空のディレクトリの削除方法

ステップ 1 SCE# プロンプトで、`rmdir directory-name` と入力し、**Enter** キーを押します。

このコマンドは、空のディレクトリに対してだけ使用してください。

ディレクトリの変更方法

現在のワーキング ディレクトリのパスを変更するには、`cd` コマンドを使用します。

ステップ 1 SCE# プロンプトで、`cd new path` と入力し、**Enter** キーを押します。

ワーキング ディレクトリの表示方法

`pwd`

ステップ 1 SCE# プロンプトで、`pwd` と入力し、**Enter** キーを押します。

ディレクトリにあるファイルの表示方法

現在のワーキング ディレクトリにある全ファイルのリストを表示できます。このリストをフィルタリングして、アプリケーションファイルだけを表示することもできます。また、リストを展開表示して、いずれかのサブディレクトリ内の全ファイルを含めることもできます。

- [現在のディレクトリにあるファイルの表示方法 \(p.4-7\)](#)
- [現在のディレクトリにあるアプリケーションの表示方法 \(p.4-7\)](#)
- [ディレクトリ ファイルリストにサブディレクトリのファイルを含める方法 \(p.4-8\)](#)

現在のディレクトリにあるファイルの表示方法

`dir`

ステップ 1 SCE# プロンプトで、`dir` と入力し、**Enter** キーを押します。

現在のディレクトリにあるアプリケーションの表示方法

ステップ 1 SCE# プロンプトで、`dir applications` と入力し、**Enter** キーを押します。

ディレクトリ ファイル リストにサブディレクトリのファイルを含める方法

ステップ 1 SCE# プロンプトで、`dir -r` と入力し、**Enter** キーを押します。

ファイルの処理

- [ファイル名の変更方法 \(p.4-8\)](#)
- [ファイルの削除方法 \(p.4-8\)](#)
- [ファイルのコピー \(p.4-8\)](#)
- [ファイル内容の表示方法 \(p.4-9\)](#)
- [ファイルの解凍方法 \(p.4-9\)](#)

ファイル名の変更方法

`rename`

ステップ 1 SCE# プロンプトで、`rename current-file-name new-file-name` と入力し、**Enter** キーを押します。

ファイルの削除方法

`delete`

ステップ 1 SCE# プロンプトで、`delete file-name` と入力し、**Enter** キーを押します。

ファイルのコピー

現在のディレクトリから別のディレクトリにファイルをコピーできます。また、FTP サイトとの間でファイルをコピー（アップロードまたはダウンロード）することもできます。

パッシブ FTP を使用してファイルをコピーするには、**copy-passive** コマンドを使用します。

- [ファイルのコピー方法 \(p.4-8\)](#)
- [FTP サイトからファイルをダウンロードする方法 \(p.4-9\)](#)
- [パッシブ FTP サイトにファイルをアップロードする方法 \(p.4-9\)](#)

ファイルのコピー方法

`copy`

ステップ 1 SCE# プロンプトで、`copy source-file-name destination-file-name` と入力し、**Enter** キーを押します。

ファイルのコピー：例

次に、ルート ディレクトリにあるローカルの `analysis.sli` ファイルを `applications` ディレクトリにコピーする例を示します。

```
SCE#copy analysis.sli applications/analysis.sli
sce#
```

FTP サイトからファイルをダウンロードする方法

FTP サイトからコマンドをアップロードおよびダウンロードするには、`copy` コマンドを使用します。その場合、コピー元またはコピー先のファイル名は、先頭に `ftp://` を付ける必要があります。

ステップ 1 SCE# プロンプトで、`copy ftp://source destination-file-name` と入力し、**Enter** キーを押します。

FTP サイトにファイルをアップロードするには、宛先として FTP サイトを指定します (`ftp://destination`)。

パッシブ FTP サイトにファイルをアップロードする方法

`copy-passive`

ステップ 1 SCE# プロンプトで、`copy-passive source-file-name ftp://destination` と入力し、**Enter** キーを押します。

パッシブ FTP サイトからファイルをダウンロードするには、送信元として FTP サイトを指定します (`ftp://source`)。

パッシブ FTP サイトへのファイルのアップロード：例

パッシブ FTP を指定して、ローカル フラッシュ ファイル システムにある `analysis.sli` ファイルを、ホスト `10.1.1.105` にアップロードする例を示します。

```
SCE#copy-passive /appli/analysis.sli
ftp://myname:mypw@10.1.1.105/p:/appli/analysis.sli
sce#
```

ファイル内容の表示方法

`more`

ステップ 1 SCE# プロンプトで、`more file-name` と入力し、**Enter** キーを押します。

ファイルの解凍方法

`unzip`

ステップ 1 SCE# プロンプトで、`unzip file-name` と入力し、**Enter** キーを押します。

ユーザ ログ

ユーザ ログはどのエディタでも表示できる ASCII ファイルです。起動、シャットダウン、エラーなど、システム イベントのレコードが格納されます。ユーザ ログを表示するには、ロガーを使用します。ユーザ ログは、システムが正常に機能しているかどうかの判別や、テクニカル サポートに役立ちます。

- [ロギング システム \(p.4-10\)](#)
- [テクニカル サポート用ファイルの生成 \(p.4-13\)](#)

ロギング システム

- [ユーザ ログのコピー \(p.4-10\)](#)
- [ユーザ ログのイネーブル化とディセーブル化 \(p.4-11\)](#)
- [ユーザ ログ カウンタの表示 \(p.4-11\)](#)
- [ユーザ ログの表示 \(p.4-12\)](#)
- [ユーザ ログの消去 \(p.4-12\)](#)

イベントは、2つのログ ファイルのどちらかに記録されます。1つのファイルが最大容量に達すると、そのファイルに記録されたイベントは一時的にアーカイブされます。もう1つのログ ファイルに新しいイベントが自動的に記録されます。2番めのログ ファイルが最大容量に達すると、最初のログ ファイルが再び使用され、そのファイルに保存されて一時的にアーカイブされた情報が上書きされます。

基本的な操作は次のとおりです。

- 外部ソースへのユーザ ログのコピー
- ユーザ ログの表示
- ユーザ ログの消去
- ユーザ ログ カウンタの表示およびクリア

ユーザ ログのコピー

ログ ファイルを表示するには、外部ソースまたはディスクにコピーします。このコマンドを使用すると、両方のログ ファイルがローカルの SCE プラットフォーム ディスクまたは FTP サーバが動作する外部ホストにコピーされます。

- [外部ソースへのユーザ ログのコピー \(p.4-10\)](#)
- [内部ソースへのユーザ ログのコピー \(p.4-11\)](#)

外部ソースへのユーザ ログのコピー

-
- ステップ 1** SCE# プロンプトで、`logger get user-log file-name ftp://username:password@ipaddress/path` と入力し、**Enter** キーを押します。
-

内部ソースへのユーザ ログのコピー

-
- ステップ 1** SCE# プロンプトで、`logger get user-log file-name target-filename` と入力し、**Enter** キーを押します。
-

ユーザ ログのイネーブル化とディセーブル化

ユーザ ログはデフォルトでイネーブルです。ユーザ ログをディセーブルにするには、ロガーのステータスを設定します。

- [ユーザ ログのディセーブル化 \(p.4-11\)](#)
- [ユーザ ログのイネーブル化 \(p.4-11\)](#)

ユーザ ログのディセーブル化

-
- ステップ 1** SCE# プロンプトで、`configure` と入力し、**Enter** キーを押します。
- ステップ 2** SCE(config)# プロンプトで、`logger device User-File-Log disabled` と入力し、**Enter** キーを押します。
-

ユーザ ログのイネーブル化

-
- ステップ 1** SCE# プロンプトで、`configure` と入力し、**Enter** キーを押します。
- ステップ 2** SCE(config)# プロンプトで、`logger device User-File-Log enabled` と入力し、**Enter** キーを押します。
-

ユーザ ログ カウンタの表示

- [現在のセッションに関するユーザ ログ カウンタの表示 \(p.4-12\)](#)
- [ユーザ ログ ファイルとデバッグ ログ ファイル両方に対する不揮発性ロガー カウンタの表示 \(p.4-12\)](#)
- [ユーザ ログ ファイルのみに対する不揮発性ロガー カウンタの表示 \(p.4-12\)](#)

ログ カウンタには次の 2 種類があります。

- ユーザ ログ カウンタ — SCE プラットフォームの前の再起動以降に記録されたシステム イベント数をカウントします。
- 不揮発性カウンタ — 起動時に消去されません。

現在のセッションに関するユーザ ログ カウンタの表示

- ステップ 1** SCE# プロンプトで、`show logger device user-file-log counters` と入力し、**Enter** キーを押します。
-

ユーザ ログ ファイルとデバッグ ログ ファイル両方に対する不揮発性ロガー カウンタの表示

- ステップ 1** SCE# プロンプトで、`show logger nv-counters` と入力し、**Enter** キーを押します。
-

ユーザ ログ ファイルのみに対する不揮発性ロガー カウンタの表示

- ステップ 1** SCE# プロンプトで、`show logger device user-file-log nv-counters` と入力し、**Enter** キーを押します。
-

ユーザ ログの表示



- (注) ユーザ ログが大容量の場合は、このコマンドの使用は推奨しません。大容量のログ ファイルは、コピーしてから表示してください（「ユーザ ログのコピー」 [p.4-10] を参照）。
-

- ステップ 1** SCE# プロンプトで、`more user-log` と入力し、**Enter** キーを押します。
-

ユーザ ログの消去

- ステップ 1** SCE# プロンプトで、`clear logger device user-file-log` と入力し、**Enter** キーを押します。

- ステップ 2** 「Are you sure?」という確認メッセージが表示されます。

- ステップ 3** Y と入力して、**Enter** キーを押します。
-

テクニカル サポート用ファイルの生成

テクニカル サポートの効率を上げるために、システム ログ内の情報を提出してください。シスコ テクニカル サポート スタッフに提出するサポート ファイルを生成するには、`logger get support-file` コマンドを使用します。

ステップ 1 SCE# プロンプトで、`logger get support-file filename` と入力し、**Enter** キーを押します。

指定されたファイル名を使用してサポート情報ファイルが作成されます。このファイルはローカル ファイル システム上ではなく、FTP サイト上に保存されます。

この操作には時間がかかることがあります。

テクニカル サポート用ファイルの生成 : 例

```
SCE# logger get support-file ftp://user:1234@10.10.10.10/c:/support.zip
```

